

福祉サービス第三者評価結果報告書【平成31年度(2019年度)】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 162-0825

所在地 東京都新宿区神楽坂2-4 結城ビル4F

評価機関名 特定非営利活動法人 NPO人材開発機構

認証評価機関番号

機構 02 - 005

電話番号 03-5206-7831

代表者氏名 理事長 水谷 正夫

以下のとおり評価を行いましたので報告します。



評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	水谷 正夫	福祉、経営	H0402001
	②	草野 澄江	福祉	H0202082
	③	安富 悠子	福祉	H0602001
	④	大内 和史	経営	H1401003
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	児童発達支援センター			
評価対象事業所名称	江東区こども発達扇橋センター		指定番号	1350800304
事業所連絡先	〒	135-0011		
	所在地	東京都江東区扇橋3-7-2障害者福祉センター1階		
	TEL	03-3648-3760		
事業所代表者氏名	河合 真紀子			
契約日	2019 年 12 月 3 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2019 年 12 月 3 日			
利用者調査結果報告日	2020 年 1 月 23 日			
自己評価の調査票配付日	2019 年 12 月 3 日			
自己評価結果報告日	2020 年 1 月 23 日			
訪問調査日	2020 年 2 月 10 日			
評価合議日	2020 年 3 月 3 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、保護者を対象にアンケート調査を行った。利用者調査票は、事業所から保護者に送迎時配布してもらい、評価機関が郵送または事業所に回収ボックスを設置し回収することで、個々のプライバシーにも配慮した。また評価にあたっては、日常の療育の様子や子どもと職員との関わりを観察して評価の補完とした。さらに、11月に開催された公開療育にも参加して、法人や園の取り組み内容の理解に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2020 年 3 月 3 / 日

事業者代表者氏名

河合 真紀子



1	<b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b>
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>&lt;法人の理念&gt; 法人は、日本の特定非営利活動事業に基づき、心身の発達に障害や遅れをもつ一人の子どもとしての権利を保障し、その障害にたいして合理的配慮を行ない、発達支援、家族支援、地域支援を実践することを通して、福祉の増進、こどもの健全育成を図る活動を行い、社会全体の利益の増進に寄与する活動を行う。</p> <p>&lt;運営方針&gt; 1)一人の子どもとして生きる・生活する権利を尊重し、合理的配慮に基づいた支援であること。 2)一人ひとりのニーズに合わせた、ライフステージを見通した発達支援であること。 3)子どもを養育する家族の意向を尊重し、家族を支える支援であること。 4)子ども・家族は地域と繋がり、地域の中で相互に貢献し合える様に支援すること。 5)職員は、本人・家族・地域の支援をとおり謙虚に豊かな人間性を養い、支援に還元すること。</p>
2	<b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b>
	<p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己肯定感を持ち、業務に対し使命感、意欲、積極性を持ち、自立的に関わる。</li> <li>・他者への思いやり、養護性を持ち、コミュニケーションに努める姿勢を持つ。</li> <li>・各々の専門資格に基づきながら、配属部署や委員会の業務を理解し、各々の施設並びに法人の一員としての自己の役割に努める。</li> </ul>
	<p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者、保護者への謙虚な傾聴姿勢、自己の行動を振り返る姿勢。</li> <li>・同じ志を持つ者として職員同士がコミュニケーションを図り、学び合い、助け合う。</li> <li>・日頃の業務や研修をとおして、業務への興味・関心や、自己の専門性の向上心を養う。</li> <li>・業務を通して企画力、構成力、宣伝力等の様々な運営の力を育て、業務の役割分担の適正化を図る。</li> </ul>

調査対象	評価時点での利用登録者299名（男性228名、女性71名）全員を対象とした。
調査方法	全保護者へのアンケート調査を実施することとし、利用者調査票は、事業所から保護者に送迎時配布してもらい、事業所に設置した鍵付きの回収箱に投函するか、直接評価機関へ郵送することでプライバシーに配慮した。
利用者総数	299
利用者家族総数（世帯）	298
共通評価項目による調査対象者数	299
共通評価項目による調査の有効回答者数	139
利用者家族総数に対する回答者割合（%）	46.6

**利用者調査全体のコメント**

「江東区子ども発達扇橋センター」に対する総合的満足度を質問したところ、「大変満足」64名（46%）「満足」65名（47%）「どちらともいえない」5名（4%）「不満」3名（2%）「大変不満」「無回答・不明」はともに1名（1%）の回答であった。満足群は129名で全体の93%を占めている。「職員の言葉遣いや態度、服装は適切」「職員が子どもの気持ちを大切にしながら対応」「支援に関する計画を作成したり見直しをする際に子どもや家族の状況や要望を聞いてくれる」などの質問では満足度が高かった。一方、「困った時に職員以外の人に相談できることをわかりやすく伝えている」「家族に対する精神的サポートは役に立っている」などの質問では満足度は高いとはいえなかった。コメントでは、「先生方はいつも否定せず肯定的に表現して下さいます。そんな先生方の姿に、いつも子どもとの向き合い方を学んでいます」「通園日数が少ない中で個別の面談があったり、保護者同士の話し合いの場があったりと、情報を得たり、不安を和らげる場があることはありがたいことです」などのコメントがあがっている。また、「子どもの数に対して先生が足りない」といった声も聞かれた。

**利用者調査結果**

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 事業所に通うことが、子どもの身体の機能や健康の維持・促進の役に立っているか	126	12	0	1
「江東区子ども発達扇橋センターに通うことが、お子さんの身体機能や健康状態に良い影響を与えていると思いますか」との質問に、126名（91%）から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に12名（9%）の回答があった。「療育が必要と言われた子ども・親にとって、とてもありがたい環境です。子どもの成長を感じられる」「家庭では用意しにくい道具を使った遊びを通して、それまでやったことなかった動きや運動の体験をさせてもらえた」「親子間のみで過ごしていたら、ここまでの成長はないです」などのコメントがあがっている。				
2. 事業所での活動は、子どもが興味や関心を持てるものになっているか	127	10	2	0
「江東区子ども発達扇橋センターでの活動は、お子さんが興味や関心を持てるものになっていると思いますか」との質問に、127名（91%）から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に10名（7%）、「いいえ」には2名（1%）の回答があった。「毎回、違う遊びを取り入れてくれていて楽しい」「新たな発見、好きなものの変化している」「子供達の興味を強く引きつけて、静かに着席して先生のお話を真剣に聞いている様子を見て驚きました」「沢山の興味や関心を持ち、過ごせている」などのコメントがあがっている。				
3. 事業所に通うことが、子どもの情緒面での発達（感情のコントロールを身につける等）の役に立っているか	121	14	3	1
「江東区子ども発達扇橋センターに通うことが、お子さんの情緒面での発達（感情のコントロールを身につける等）の役に立っていると思いますか」との質問に、121名（87%）から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」は14名（10%）、「いいえ」には3名（2%）の回答があった。「親以外の第三者の大人からの注意は子どもにとってすごく大切」「子どもの気持ちに寄り添って丁寧にしてくれるので安定してきた」「順番を守ることができたり、我慢することを覚えた」「子どもが先生のことを信頼している」などのコメントがあった。				

4. 事業所に通うことで、子どもに社会性(人と人との関わり合いやルール等)が身についているか	119	17	2	1
「江東区こども発達扇橋センターに通うことで、お子さんに社会性(人と人との関わり合いやルール等)が身についてきたと思いますか」との質問に、119名(86%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に17名(12%)、「いいえ」には2名(1%)の回答があった。「椅子に座ってられるようになる、友達と関われる、ルールを守って遊べる」できないことに対して度々不理解がある社会一般に対して、安心・安全な場所です」「誰かと何かをする」ことに抵抗がない姿を見るとよくわかる」といったコメントがあがっている。				
5. 子どもの様子や支援内容(体調変化時の対応含む)について、事業所と情報共有できているか	128	9	1	1
「お子さんの様子や、支援の内容(体調変化時の対応含む)について、江東区こども発達扇橋センターと情報共有できていますか」との質問に、128名(92%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に9名(6%)、「いいえ」には1名(1%)の回答があった。「きめ細やかに気にかけてもらえ、共有できている」「活動の様子や本人の気持ち・言葉を活動後に細かく話してくれる」といったコメントがあった。また、「あまりフィードバックがないので、何をやったのか、どんな様子で取り組んだのかかわからず心配」などの声も聞かれた。				
6. 家族に対する精神的なサポート(子育てに関する悩み相談や進路相談、家族間交流の機会の提供等)は役に立っているか	111	23	3	2
「家族に対する精神的なサポート(子育てに関する悩み相談や進路相談、家族間交流の機会の提供等)は役に立っていると思いますか」との質問に、111名(80%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に23名(17%)、「いいえ」には3名(2%)の回答があった。「先生間でも情報共有されているので、安心して相談することができる」「就学相談や家族に対するサポートはよくしてくれる」とのコメントがあがっている。また、「悩みや気になっていることを面談で話しても具体的なアドバイスがない」などの声も聞かれた。				
7. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	115	18	4	2
「あなたは江東区こども発達扇橋センターの生活スペースは清潔で整理された空間になっていると思いますか」との質問に、115名(83%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に18名(13%)、「いいえ」には4名(3%)の回答があった。「清掃は行き届いている。足元にホットカーペットがあったり、気遣いを感じる」「基本的に清潔です。時に食べこぼし等があるので、コロコロや掃除機をかけてもいいのではと思う」といったコメントがあがっている。また、「利用者の人数に対して少々狭く感じます」などの声も聞かれた。				
8. 職員の接遇・態度は適切か	135	0	3	1
「あなたは、職員の言葉遣いや態度、服装などが適切だと思いますか」との質問に、135名(97%)から「はい」の回答が得られた。「いいえ」には3名(2%)の回答があった。「動きやすい服装(ジャージ)、清潔感あり、言葉も丁寧」「問題ありません」「先生方はいつも優しく親切」「とても丁寧ですし、信頼できる」といったコメントがあがっている。また、「職員を保護者の前で厳しく叱責しているのを見かけたことがある。あまりよくないと思う。(子どもも怖がっていた)」などの声も一部に聞かれた。				
9. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	119	8	0	12
「お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの、職員の対応は信頼できますか」との質問に、119名(86%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」には8名(6%)の回答があった。「信頼しており、安心している」「小さな傷でも必ず説明があるのでありがたいです」「ケガ、病気等の不測の事態を当施設利用時に遭遇していません。何かあった場合は、適切に対応していただけるものと思う」「先生方には、きめ細かく対応いただいている。共有もできているのでありがたいです」などのコメントがあがっている。				
10. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	117	12	0	10
「あなたは、子ども同士のいさかいやいじめ等があった場合の職員の対応は信頼できますか」との質問に、117名(84%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」には12名(9%)の回答があった。「個別に状況を伝えて頂いている。親同士もコミュニケーションがとれているので、どちらかを責める等トラブルありません」「何人かの職員がよく見ていて、公平に対処している」「おもちゃの取り合いになった時、各々子どもを落ち着かせ、冷静に対応していた。親へのフォローもして頂き助かりました」といったコメントがあがっている。				

11. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	134	4	1	0
「あなたは、職員がお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか」との質問に、134名(96%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に4名(3%)、「いいえ」には1名(1%)の回答があった。「よく子どもを見ていると思う」「自分でできることは自分で」というように、できなくてもやらせてくれるのでありがたい」「子どもがどうしたいか、どう思っているかをきちんと聞いてくれる」「子どもの気持ちを受け止めながら声かけをしていて、楽しく過ごしている様子」といったコメントがあがっている。				
12. 子どものプライバシーは守られているか	127	7	2	3
「お子さんやご家族のプライバシー(他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと)を職員は守ってくれていると思いますか」との質問に、127名(91%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に7名(5%)、「いいえ」には2名(1%)の回答があった。「極力守ろうとしてくれていると思いますが、環境、時間、場所的理由により徹底は難しいと思う」「面談は遊戯室でやっているのであれば個室が望ましい」「進路の話は部屋の隅でするより、別室の方がいいかもと思った」などのコメントがあがっている。				
13. 個別の計画作成時に、子どもや家族の状況や要望を聞かれているか	129	8	0	2
「お子さんの支援に関する計画作成したり見直しをする際に、江東区こども発達扇橋センターはお子さんやご家族の状況や要望を聞いてくれますか」との質問に、129名(93%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」には8名(6%)の回答があった。「とても丁寧にも何度も話して下さるのでわかりやすい」「子どもに沿ったものを作成してくれている」といったコメントがあがっている。また、「よく支援計画作成してくれていると思うが、年2回、親側で○をつける用紙などが反映されていない時がある」などの声も一部に聞かれた。				
14. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	127	7	1	4
「お子さんの計画やサービス内容など、江東区こども発達扇橋センターでの生活についての説明は、わかりやすいと思いますか」との質問に、127名(91%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に7名(5%)、「いいえ」には1名(1%)の回答があった。「難しい言葉を使わず、わかりやすい」といったコメントがあがっている。また、「今日何したか、担任から全く説明がない。報告している担任もあり、対応にバラつきがある」「どうして今それを始めるべき時期と判断されたのか、説明を受けてもわからない」などの声も聞かれた。				
15. 利用者の不満や要望は対応されているか	113	9	0	17
「あなたが不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれていると思いますか」との質問に、113名(81%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」には9名(6%)の回答があった。「気持ちに寄り添ってもらえる」「不満はありませんが、対応してくれると思う」「一度伝えた時、その後しっかり対応してくれた」といったコメントがあがっている。また、「周知してほしい要望が先生間で伝わってなかった時があり、同じ説明を何度もするのが二度手間な時が何度かあった」などの声も一部に聞かれた。				
16. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	85	29	9	16
「あなたが困ったときに、職員以外の人(役所や第三者委員など)にも相談できることをわかりやすく伝えてくれましたか」との質問に、85名(61%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に29名(21%)、「いいえ」には9名(6%)の回答があった。「説明会、契約書で聞いている」「掲示してあるので、聞かずともわかる。わからなければ聞けばよい」「特に職員以外に相談すべきことはありません」「先生以外に必要としていなかったの、気づきませんでした」といったコメントがあがっている。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	◎あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	◎あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	◎あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	◎あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリー1の講評	
	法人理念に基づき、区の指定管理者として児童発達支援センター事業を推進している 江東区こども発達扇橋センター(以下分室)はこども発達センター(以下本園)の分室として開設され通園事業と相談事業を開始した。2012年通園事業は児童発達支援事業となり、2014年特定・障害児相談支援事業を加えて児童発達支援事業はセンター化された。園は法人理念「ひとりひとりを大切に」に基づき「地域の発達に支援を必要とする子供・家族等への中心的役割を担い、専門的な支援の提供・共有・ネットワークづくりに努め、地域全体の発達支援力・子育て支援力の向上に努める」を運営方針に区の指定管理者として事業を推進している。	
	クラス毎にリーダーを配置し、園長・主任はクラスとのやり取りを大切に運営している 年度初めの職員研修会では、法人運営の基本方針及び児童発達支援センター事業の運営体制や組織全体の説明がある。センター事業は、低年齢児グループ1クラス、一日支援コース2クラス、半日支援コース1クラスの計4クラスで構成されている。クラス単位にリーダーが配置され、クラス毎の職員配置は前年度末に周知している。「職員が健康で気持ちよく仕事ができるようにすること、また、児童相談所案件など要支援のケースも多いため」として、クラスとのやり取りを大切にしながら、園の運営に取り組んでいる。	
	事業運営に関わる案件は両園の管理職で方向性を決め、職員の意見を聞いて決定している 事業運営・保育・行事などの方針は両園の園長で方向性を決め職員の意見を聞いて決定している。園長は「決定事項について職員がいきなり決まると動揺せず準備できるようにその経過を適宜伝えるようにしている。また数多くある行政の通達事項は分かり易く伝える」工夫をして朝礼・終礼で説明・周知している。非常勤職員には職員研修会の資料を配布して事業運営の基本を説明し、保護者には保護者会で「こども発達センター事業の計画と報告、日曜療育・夏祭り・運動会・遠足・公開療育等通園クラスの年間行事、地域支援」等について資料で説明している。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>利用者及び職員の意見要望を収集・把握し、事業所自己評価で改善項目を抽出している</p> <p>利用者の意向はクラス毎に事業運営と個別支援計画についてアンケートを取り、園の入り口にはあなたの声BOXを設置して意見を吸い上げている。職員の意向は「業務に関する自己目標・希望調査」で園長が年2回面談して把握している。地域の福祉情報は自立支援協議会等に参加して把握すると共に保育園・学童クラブ巡回相談の活動を通して学齢期児童の状況と課題を掴むことができ園の在り方を考えるきっかけになっている。園は昨年度から児童発達ガイドラインに基づいて職員及び保護者による「事業所自己評価」で改善項目を抽出している。</p> <p>児童発達支援センター事業は、在籍児300名を維持する事を目標に計画を策定している</p> <p>両園は区の指定管理者である事から、区の障害児福祉計画を園の中期計画と位置付け、事業上の大きな変更点と翌年度の予算申請は昨年度実績に基づいて、両園の管理職が区の管轄部署と相談しながら行っている。事業計画は平成30年度の在籍児拡大300名を維持する事を目標に作成している。また事業所自己評価により抽出される課題を元に3年の長期目標と1年の短期目標を設定し、環境体制整備・業務改善・適切な支援・保護者との連携等について方針を定めてPDCAサイクルが回るように計画を作成している。</p> <p>年度の事業計画・報告は区に提出し月次管理は月末報告会で事業の実績管理を行っている</p> <p>園は年度末には事業の実績報告と翌年度の事業計画を区に報告・提出し、月次については月末報告会で発達支援センター事業の在籍児数・退園児数、相談支援事業の契約者数・利用者数等の実績報告、各事業の様子と課題報告に加え管理経費の収支状況を管理している。また月次の実績報告の他クラス毎の様子と課題が報告されており、事業計画の進捗管理に対する職員の関心は高まっているが、事業計画の施設運営の改善(環境整備・業務改善・適切な支援の提供等)に関して、現状と方針に加えて実効策の進捗管理指標を明確にする等の工夫が期待される。</p>		

カテゴリ3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

<b>評価項目2</b> 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		<b>評点(〇〇〇)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一人としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<b>カテゴリ-3の講評</b>		
<p>年度初めの職員研修会では、法人の「倫理綱領及び行動規範」の研修が毎年行われている</p> <p>年度初めの常勤全職員参加の研修会で、事業は、児童福祉法に基づく障害児通所支援事業であるとの説明があり、「利用者の人間としての権利を尊重する」等を定めた倫理綱領と、「言葉・態度・服装、権利擁護、虐待防止」等について具体的な指針を示す行動規範の研修がある。事業計画では、「支援者として専門的役割・使命を自覚し絶えず自己研鑽に努める」等を職員の役割と定め、「法人職員として他の支援者との連携を図り、協力して支援や研修を行う」等の職員間連携に努めて、福祉サービスに従事する者としての守るべき規範遵守に取り組んでいる。</p> <p>職員の定期的自己行動チェックと要保護児童の見守りにより虐待防止に取り組んでいる</p> <p>苦情には、苦情解決責任者・受付担当者、第三者委員を明記し、懸案事項についてはクラス担任も加え対応策を決め全体に周知している。保護者の要望はアンケートの他、「各種申請書」及び「生活ノート」への記載でも受け付けている。虐待防止にあたって園長は職員の自己行動チェック表を定期的に回収、確認し必要に応じて個別対応している。家庭状況に課題がある要保護児童には職員がクラス活動を注意深く見守り、園長に報告し対応している。要保護委員会は支援者の行動や支援場面の自己評価や学習会に関わる企画等の啓蒙をメインに取り組んでいる。</p> <p>公開療育の開催、保護者支援、交流保育、事例検討会等で地域交流・支援に努めている</p> <p>両園合同で行う公開療育では、こども発達センター事業の報告、施設療育の公開があり、毎年多数の関係機関が参加している。園は、自立支援協議会、児童通所事業所連絡会等の公の会議に参加して、課題の検討や情報の共有を図り、地域福祉を支える役割に取り組んでいる。保護者が療育に参加する日曜療育参加や保護者との面接機会を設ける保護者支援に努め、卒園後の移行支援・地域の子どもと触れ合う交流保育等で、地域との交流を深めている。昨年度からは、近隣の小規模保育所との事例研修会等、地域支援にも力を入れている。</p>		
<b>カテゴリ-4</b>		
<b>4</b>	<b>リスクマネジメント</b>	
<b>サブカテゴリ-1(4-1)</b>		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		<b>サブカテゴリ毎の標準項目実施状況</b> <b>4/5</b>
<b>評価項目1</b> 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		<b>評点(〇〇〇〇●)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>園は、利用者が児童であることから健康衛生管理と安全管理のリスク対応に力を入れている</p> <p>園は利用者が児童であることから、健康衛生管理と安全管理のリスク対応に力を入れている。健康管理面では、毎朝の健康チェック、けが・発作・体調不良対応、アレルギー配慮等の給食対応、感染症対応、熱中症予防対応等、保健業務の危機管理に必要なマニュアルを整備している。安全管理面では、消防計画及び災害時対応のマニュアルの作成、自衛消防隊の設置に加えて、津波、地震等を想定した避難訓練を毎月実施している。また園児の園外飛び出し等の事故防止対策、施設入り口の施錠等の防犯対策、週末のヒヤリハット報告等、リスク対応に取り組んでいる。</p> <p>リスクマネジメントは行われているが、災害時の事業継続計画の策定は課題となっている</p> <p>園は、通院を要しないけが・誤飲・誤食、転倒、他害行為等7項目を、ヒヤリハット報告の目安とし、報告は文書で行っている。週末には、クラス単位に日々の記録の報告があり、ヒヤリハットは月次で部門別と内容別に集計し事故に繋がらないよう取り組んでいる。事故の際は、対応と結果の状況報告及び原因を分析し、再発防止の為に関係者間で話し合いを行っている。危機管理対応マニュアルの整備、ヒヤリハット・事故報告等、リスクマネジメントは行われているが、大規模災害及び近年増している風水害時の事業継続計画の策定は、今後の課題となっている。</p> <p>共有サーバー導入で情報の共有と管理の効率化を図っており、引き続き改善が期待される</p> <p>紙ベース資料は、種類毎にファイリングして保管し、健康の記録・身体測定・健診録など利用者の個人情報は個別ファイルに入れ、保健に関するものは、USBを使用し共に鍵付きロッカーに保管している。個人情報管理委員会は、PC、USB(廃止の方向)管理の徹底と、共有サーバーを導入し部門毎のフォルダを設けて、紙ベース資料を減らし情報の共有と管理の効率化を図る等の業務改善に取り組んでいる。在籍利用者数の増加により、業務量が増えているとの職員の声はまだ多く、電子化情報を更に増やす等の情報管理の引き続きの改善が期待される。</p>		
カテゴリ-5		
5	職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当

<b>評価項目3</b> 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		<b>評点(0000)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
<b>評価項目4</b> 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		<b>評点(0000)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		<b>サブカテゴリ毎の標準項目実施状況</b>
		<b>3/3</b>
<b>評価項目1</b> 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		<b>評点(000)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当
<b>カテゴリ-5の講評</b>		
<p>園は、専門職員を確保するため研修生を募集し、多くの大学にも求人を出している</p> <p>園は、作業療法士・言語療法士・社会福祉士等の専門職員を確保する為、専門とする分野のある大学や大学院の研修生を募集し、原則1年間の研修期間を設けている。大学等専門教育機関等に園の活動情報を伝え、教職員や学生を専門職員育成の支援として実習生を受け入れる他、地方の就職希望者を対象に多くの大学に求人を出している。新規採用職員は、学習グループを編成して発達等の心理学知識・障害の理解・指導技術の研修を受け、必要に応じて経験者と協力体制を組んでいる。人材の配置は、職員の希望調査と経験年数及び実績を元に行っている。</p> <p>人材育成は、施設内外の研修参加・勉強会と他の関連施設との交流を柱に行われている</p> <p>人材育成は、専門職の技能育成を目指す研修と他通所機関・関連施設等の施設見学・研究会・情報交換が柱になっている。研修は、非常勤講師や嘱託医による施設内研修、職員が自主的に行う学習会、初任者必須企画研修・専門職向上・資格取得・上級救命講習等キャリアを考慮した外部研修がある。地域療育連絡会参加は、他施設の運営等の情報を得て、見聞を広め、意見交換を行い専門職として資質を高める機会となっている。指導を担当する職員には、扱いが難しい園児を担当させ、地域の事を知ってもらうために地域療育連絡会への参加を促し、育成している。</p> <p>「にやり・ほっと」報告に職員同士がほめあうタイムを設けて明るい職場作りをしている</p> <p>在籍児童の増加により、職員の中には「業務量が増え負担が大きくなっている、有休がとりにくい」等の声があり、仕事にやりがいを感じつつも、業務遂行にストレスを抱えている人が多い。園は、ノー残業デイを設け、夏休み・冬休み時には有休を結び付けて休めるように、出勤体制を調整している。職員が意欲を持ち、働き易く風通しの良い職場作りのため、「にやり・ほっと」報告の時間を週に1回設け、二人1組になり、毎週相手を変えてほめ合うことにより、普段交流があまりない職員との交流機会が生まれ、職場の雰囲気が明るくなってきている。</p>		

カテゴリー7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1	
事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
<p>「児童発達支援センター事業の受け入れ人数を大幅に拡大する」</p> <p>P:通園希望者の増大で、待機児は相談事業で指導をしていたが、年度初めに20名となり、結果相談事業の在籍児が400名を超え、指導に支障が出てきた。多くの子供がサービスを受けられるよう、「児童発達支援センター事業で、通園頻度の少ない隔週又は月1回通園児を受け入れ、総在籍人数を250～300名にする」を目標に、受け入れ人数を拡大する事にした。</p> <p>D:①一日の定員を41名とし、隔週・月1回通園の形態を設け在籍制限を300名とする②途中退園者が見込まれた時は、速やかに次の入園児を決め待機児解消に努める③相談支援事業では、利用回数の少ない園児はセルフプランを優先し、他施設利用の計画作成希望者は優先的に計画を作成する。</p> <p>C:年度末在籍児は302名となった。待機児は年度初め0名が、年度末では20名までになったが、相談事業で個別指導は行えた。相談支援事業の契約者総数が年々増えてきている。</p> <p>A:翌年度の計画でも、サービスの質の確保が保証されるように業務改革を図り、総在籍児数の拡大を引き継ぐとしている。相談支援事業でも、優先順位を考慮したサービス計画作成を目標としている。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
<p>理由:児童発達支援センター事業者として保護者や地域のニーズに応えるため大きな目標を設定して課題に取り組んだ。取り組み結果の検証も行われており取り組み内容に妥当性が窺える。翌年度の事業計画でも更なる取り組み内容の改善を図って前年度の拡大を引き継ぐとしている。目標達成の状況:総在籍児250～300名の目標に対して年度末には302名となり目標を達成している。副次的効果:在籍児数の拡大による業務量の増加により、一人ひとりの利用者の状況を把握するのは大変となったが、「子どもの様子が変わった」「楽しみに通っている」等の保護者の声があり、職員の喜びに繋がる場面が出て来ている。特筆すべき事項:児童発達支援センターは、概ね人口10万人規模に1か所以上の設置基準となっているが、足りていないのが現状である。園は、センター事業を推進しているという使命感を持って通園枠を拡大して支援に取り組んでいる。また、昨今は重度の遅れを伴う子供よりも軽度又は知的な遅れのない発達障害の子供が増えてきており、児童発達支援センターとして、通園枠の拡大に加えて、小規模保育園・新規開設保育園の職員との事例検討会を開く等、地域支援にも力を入れて取り組んでいる。</p>	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

「在籍児の増大に伴い業務の簡素化、効率化に取り組む」

P:児童発達支援センター事業の在籍児を約300人にした為、個別支援計画作成・報告、日々の指導プログラム作成等、職員の業務量が飛躍的に増大した。「在籍児童の前期・後期の個別支援計画・報告書を予定通り保護者に配布する」を目標に、業務の簡素化、効率化に取り組む。

D:「療育支援ニーズ調査」表の改善に取り組む。紙ベースの資料を減らし、共有サーバーを導入して情報アクセスの容易化を実現する。月末報告会で、部門毎の実績報告・検討課題等を確認し、週末には翌週の業務確認を行う。

C:調査表の改定により発達段階が分かり易くなり、発達を捉え易く、個別支援計画作成が容易になり、予定通り保護者に配布できた。共有サーバーに、部門・業務毎のフォルダを作り、書類作成等の際に情報アクセスが容易になり、月末報告会での部門毎の支援計画・報告書等の資料作成が効率化出来た。

A:翌年度は、療育支援ニーズ調査表の読み取り方等について、新人の技量向上が必要である事、オンライン・ペーパーレスの更なる改善を方針に計画を策定している。月末報告会、週末の部門毎の業務確認は、継続して実施していくとしている。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li><li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li><li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li></ul>
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li><li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)</li><li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li><li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li><li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

理由:課題に対して、「在籍児童の個別支援計画・報告書を予定通り保護者に配布する」を目標に取り組んだ。取り組み内容についても検証を行っており、翌年度の計画にも、業務改善の方針に「オンライン・ペーパーレスの改善」等、振り返り結果を反映させている。

目標達成の状況:前期後期共に保護者に支援計画書・報告書を予定通り配布できた。

副次的な効果:月末報告会や事業計画・事業報告・各行事の打ち合わせ等は、オンラインで行う機会が増え、ペーパーレスもあって、時間の効率化につながった。業務の簡素化・効率化により、ノー残業デイが徹底されるなど、働き方改革の動きに影響し、職員の意識の高まりが図られている。

特筆すべき事項:業務の簡素化・効率化は徐々に進んでいるが、職員一人当たりのケース数は依然として多く、そのための業務負担は課題となっている。園は、業務改善を重要なテーマと認識して、改善方針を立てており、職場内の環境整備、不必要な書類に廃棄、オンライン・ペーパーレスの更なる改善、職員一人ひとりの資質向上等を計画している。これらについても、方針と施策を全職員で共有し、目標を設定した取り組みと振り返りを繰り返すことが期待される。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリー1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	○非該当	
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	○非該当	
	サブカテゴリー1の講評	
	<p>区のホームページや「子育てハンドブック」等の情報誌で広く事業内容を周知している</p> <p>園は、江東区の児童発達支援センターとして、ことばや運動、社会性の発達の遅れを持つ子供の発達支援、家族支援、地域支援を目指して事業を展開している。区のホームページや区報、情報誌「江東暮らしガイド」や「子育てハンドブック」等で、今年度の事業計画も含めた事業内容を広く周知している。法人ホームページも今年度リニューアルし、主だった行事ごとに更新して出来るだけタイムリーな情報発信に努めている。園の窓口にも用意されているリーフレットは療育の基本的な流れ、時間、日数等、利用のポイントをコンパクトに紹介している。</p> <p>障害児相談支援や保育所等訪問支援など関係機関と密に連携し、情報共有に努めている</p> <p>園は、地域の中核的な発達支援を担う機関として、特定・障害児相談支援、保育所等訪問支援、区の相談事業も併せて実践しており、自立支援協議会、児童通所事業所連絡会、保健相談所、病院、こども家庭支援センター、保育所、小学校等、幅広い機関と連携をとり情報交換に努めている。区の障害者施策課には年間の事業報告書を提出して、園の運営方針や職員体制、健康・安全等の管理、地域交流等、取り組み内容についての詳細な情報を発信している。又、毎年公開療育を開催し、地域に療育の実際や支援の専門性を伝える場を設けている。</p> <p>ニーズに応えるため在籍制限を大幅に引き上げて、予約を調整し、見学につなげている</p> <p>近年、軽微でもこどもの発達の遅れを気にされ、専門的な療育を求めて利用希望者の増加傾向が続いており、昨年度より待機児童解消のため、在籍制限を大幅に引き上げて、ニーズに応えようとしている。それでも徐々に待機者が増え始めており、より効率的な受け入れの為、問い合わせや見学希望はまず相談事業部で受け付け、パンフレットと相談申請書を送付し、予約調整を行っている。問い合わせの中には医療的ケアを必要とするケースもあり、他機関の情報も併せて積極的に提供し、できるだけそれぞれにふさわしいサービスにつなげよう努めている。</p>	

サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
<b>評価項目1</b> サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、同意を得ている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
<b>評価項目2</b> サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリ-2の講評		
<p><b>新入園の際はまず全体で重要事項を説明し次に各クラス毎に具体的な説明を行っている</b></p> <p>新入園の際は、重要事項説明書に基づいて、まず全体説明で、園の概要や運営方針、職員配置や支援の内容、利用者負担など、サービス利用の際の基本的なルールと個人情報の保護規程等を具体的に説明し、了解を得て契約書を取り交わしている。その後、クラスごとに分かれて、支援方針や内容、一日のスケジュールや持ち物、登降園時のルールなど実際の約束事や注意点について説明し、保護者の了解を得ている。フリーの職員を配置して個別の質問に答え、サービス開始前の不安解消や確認事項が十分理解できるように配慮している。</p> <p><b>親子分離の時期は個別に判断しマーク等を使って場面設定を工夫し不安解消に努めている</b></p> <p>サービス開始時には事前に提出してもらった「療育支援ニーズ調査」を基に、前期の個別支援計画を作成し配布している。ニーズ調査表には、ひとり一人の食事、排泄、着脱、運動、言葉、社会性等に関する現状と保護者の要望が記載されており、支援に必要な基本情報を把握している。療育開始直後は、保護者同伴の慣らし期間を設けて、食事の仕方や排泄のサインなどそれまでの生活習慣を共有し、無理なく親子分離できるように配慮している。トイレの場所を絵で示したり、それぞれの持ち物マークを決めてわかりやすい場面設定を工夫し不安の解消に努めている。</p> <p><b>サービスの終了時には報告書や移行支援会議で、支援状況や配慮の視点を引き継いでいる</b></p> <p>園では、他の保育園や幼稚園を並行利用しているケースも多く、他機関訪問等で情報交換や相談支援を行っている。サービスの終了時には保護者の了解を得た上で、移行先の機関へ報告書を提出しており、言葉の理解や社会性、行動特性等、これまでの支援の状況や配慮の視点を申し送りしている。特に特別支援学校や特別支援学級に通う利用児については移行支援報告書だけでなく、移行支援会議を開催し、映像を使った説明も加える等、進級後の指導に役立つような引き継ぎに努め、必要に応じて学校訪問を実施して、支援の継続性を保とうとしている。</p>		

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	11/11
3	個別状況に応じた計画策定・記録		
<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		<b>評点(〇〇〇)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子ども一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当	
<b>評価項目2</b> 子どもや保護者の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している		<b>評点(〇〇〇〇)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画は、子どもや保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 計画を子どもや保護者にわかりやすく説明し、同意を得ている	○非該当	
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当	
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	○非該当	
<b>評価項目3</b> 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		<b>評点(〇〇)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしきみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当	
<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		<b>評点(〇〇)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当	
<b>サブカテゴリ-3の講評</b>			
<p>「療育支援ニーズ調査」で保護者と共に生活状況を把握し、アセスメント情報としている</p> <p>園では、独自の「療育支援ニーズ調査」を保護者に記載してもらい、こどもの心身状況や生活状況を把握している。ニーズ調査表は、統一した手順で個別支援計画を作成する為のアセスメント情報として活用している。生活面、運動面、言語、対人コミュニケーション、情緒、集団活動等の現状を、頻度に応じてA(頻繁)・B(時々)・C(少)で、保護者の要望の度合いを、大(◎)・中(○)で確認し、支援目標の設定に反映させている。ニーズ調査表には、医療、健康管理に関する配慮事項、他機関の利用情報等、支援に必要な情報が網羅されている。</p> <p>ニーズ調査表の記載方法を改訂し、成長過程を踏まえて支援計画を見直している</p> <p>ニーズ調査表の調査項目は発達段階の評価に結びつくように工夫されており、スモールステップで次の支援目標が設定できるようになっている。個別支援計画は長期と短期の支援目標と、生活、運動、言語、集団活動等、支援場面毎の目標と支援内容、優先順位を設定し、全体の支援方針でまとめている。前期/後期の半年毎に計画を見直し、担当者を中心にケース会議で検討し、保護者と面談して同意を得、確定している。今年度はニーズ調査表の1枚のシート内に前・後期2回分を記入できるようにし、こどもの変化と成長過程が一目でわかるように改訂した。</p> <p>クラス日誌の他、集団活動や言語指導等の記録も個別ファイルに一括管理し共有している</p> <p>支援に必要な情報は個別にファイリングし、毎日の朝礼、終礼で振り返りと連絡事項を確認し、担当職員間で共有している。クラス日誌には、一人ひとり支援場面での活動の様子を観察し、詳細に筆記で記録している。集団活動、言語指導、認知学習指導の際も都度個人記録を作成し、モニタリングにつなげている。家庭との連絡事項は「生活ノート」を使い、健康状態やその日の活動の様子を保護者と共有している。年度初めには新旧クラス担当で引き継ぎのケース会議を開催し、申し送りを確実にしている。</p>			

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、子どもや保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 日常の支援の中で、子どものプライバシーに配慮した支援を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(子どもが「ノー」と言える機会を設けている)	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 施設内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
<p>外部機関と情報をやり取りする機会が多いが、都度保護者に文書で同意を得ている</p> <p>園では児童発達支援だけでなく、他機関訪問や相談支援事業にも取り組んでおり、外部と個人情報をやり取りする機会が多い。そのため、個人情報の保護については明確な対応規定を設け職員に周知し、外部へ情報を送る場合は都度、文書による保護者の同意を確認している。こどもの作品展示の際は個人が特定できない形で掲示し、見学者の来訪は事前に保護者に報告し了解を得ている。施設には面談スペースが十分でないため、面談時間を調整したり、広い部屋の隅に分かれて座る工夫や隣接の集会所を利用して、出来る限りプライバシー確保に努めている。</p> <p>それぞれの発達段階に応じた支援と生活習慣や価値観に配慮した個別対応に努めている</p> <p>園では、着替えや排泄介助は同性支援を徹底し、羞恥心に配慮している。また、拒否の表現にはこどもの意思を尊重し、強制しない方針を職員で共有している。一律な対応をせず、「ノー」という気持ちに寄り添い「イヤイヤ」や「駄々こね」をまず受け止めるようにしている。そのうえで待ったり、違う促し方をしたり、時間を置いて別の提案をする等各々の発達段階に応じた支援に努めている。又「特別な配慮事項の申請書」を用意し医療的配慮、給食への配慮、文化・信教上の配慮の要望に応え、クラス運営や食事の提供方法を工夫している。</p> <p>園児同士のトラブルはすぐに保護者に報告し、振り返りで再発予防策を検討している</p> <p>園では、指導中の園児同士のトラブルにはすぐに対応し、事実経過を必ず保護者に報告(外国籍の保護者への説明には自動翻訳機も活用している)することとしている。職員は、終礼でトラブル情報を共有し、場面設定や支援方法を振り返り、物を投げたり、叩く、噛みつく等の行動があった際の援助方法と再発防止策を話し合い、場合によってはケース会議で検討している。また、毎週末には「ヒヤリハット報告」についての情報を共有し予防的対応を周知している。職員の目が届かないところでトラブルが発生しないような十分な職員配置も期待されている。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映している	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>サービスの基本的事項は明示されているが、業務量の増大に伴い効率化が求められている</p> <p>サービスの基本的事項や手順は通園事業のマニュアルやハンドブックに明示されており、年度毎の事業計画作成時にマニュアル類も併せて点検、見直しを行っている。ニーズ調査表の記載方法を見直す等、個別支援計画作成の効率化を図っているが、在籍数を大幅に拡大したことで支援記録や報告書作成、他機関との連絡調整等、職員の業務量が格段に増え、業務の効率化が求められている。誕生会をクラス毎に開催したり、宿泊行事を夏まつりに変更する等、年間スケジュールを調整して業務量の軽減を図っているものの、より一層の取り組みが期待されている。</p> <p>専門性に裏打ちされた療育の提供を目指して研修を充実させ、職員育成に努めている</p> <p>年度の初めの研修で、園の理念や「ひとり一人の発達段階に合わせた支援の実践」を運営方針としていることを確認し、サービスの基本的な事項や指導プログラム作成の手順をマニュアル化して、業務の標準化を図っている。管理者は巡回やクラス補助に入りながら業務内容を点検している。「基本を大切にしながら新しい知見を学ぶことが大切」と考え、全員分の育成計画、研修計画を立てて実践している。テーマを決め、内部の専門職チームごとの研修を開催したり、チームリーダー育成や地域ニーズを知るための外部研修や自主研修を積極的に奨励している。</p> <p>保護者アンケートの結果や職員の提案を受けて、対応できることはすぐ改善している</p> <p>職員の要望や提案は職員アンケートや会議の中で聴き取り保護者には都のガイドラインに従ってアンケートを実施し、療育内容、行事、保護者支援、他機関訪問、相談支援等事業所、幅広く意見聴取を行い結果はホームページで公表している。「掲示物が多くてわかりにくい」との意見には部門ごとにわかりやすく分類して掲示するように改めたり、「面談の時間がもっと欲しい」との声には登園した時の時間を有効活用する等、出来ることは直ちに業務に反映させているが、ペーパーレスへの取り組みや相談職員の照会表の作成等、改善課題もまだ残されている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 26/26
1 評価項目1 個別の支援計画に基づいて子ども一人ひとりの発達の状態に応じた支援を行っている	評点(〇〇〇)
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 個別の支援計画に基づいた支援を行っている ○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している ○非該当
●あり ○なし	3. 関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって、支援を行っている ○非該当
評価項目1の講評	
<p>目標に対する支援内容を具体的に明記し優先順位をつけて支援している</p> <p>昨年度導入したセンター独自の「療育支援ニーズ(要望)調査」(生活面、発達面、配慮事項等への要望と生活、運動、手指作業、言語理解、対人コミュニケーション等200以上の項目からなる調査表(低年齢児用・幼児用)に保護者が記入し年度初め(利用開始時)に提出している。園ではニーズ調査表を基にアセスメントを行い、ケース会議で個別支援計画を作成している。個別支援計画では各項目(生活、運動、手指作業、言語理解、対人コミュニケーション)ごとの目標に対する支援内容を具体的に明記し優先順位もつけて支援している。</p> <p>興味を示す遊びからコミュニケーションの機会をキャッチし言葉かけをしている</p> <p>園では言葉の発達に課題を抱える多くの園児にとって、コミュニケーションで重要なことは人と人の関係性と考えている。職員は自由遊びの時間の園児の行動に注目し、おもちゃの好みや興味を示す遊びからコミュニケーションの機会をキャッチし言葉かけをしている。給食時間にぐずる園児に対し、職員は「嫌なんだけど食べたいんだよね」と受け止め「おいしいね」「もぐもぐもぐ」、食べ終わったお皿を指して「ピッカピカ」と園児が伝えられずダダをこねる場面ごとに一つひとつ言葉にして受け止め、園児の様子を観察し状態を把握し対応している。</p> <p>就学する小学校等で円滑な指導が受けられるよう移行支援報告書等で情報提供している</p> <p>園では療育を必要とする園児と保護者が連携し継続的な療育が地域で受けられるよう、希望する保護者に対し園児が並行利用している保育園や幼稚園を訪問し情報を共有している。卒園や転居等で指導を終了する場合は保護者の希望をうけ、就学する小学校や転園先となる保育園・幼稚園で円滑な指導が受けられるよう、これまでの状況や配慮の視点をまとめた移行支援報告書を提出して引継ぎをしている。又、特別支援学校、特別支援学級、特別支援教室に対しては保護者の了解を得て移行支援報告書を提出し各学校と支援会議を開催し引継ぎを行っている。</p>	

2 評価項目2 子どもが食事を楽しめるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの状態やペースに合った食事となるよう、必要な支援(見守り、声かけ、食の形態や用具の工夫等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安全に食事をとれるよう取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 食物アレルギーや疾患等については、医師の指示に従い、対応している	○非該当
●あり ○なし	5. 食についての関心を深めるための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	6. 子どもの状況をふまえ家庭での食事について助言を行っている	○非該当
評価項目2の講評		
<p><b>給食当番の活動に取り組み社会性を支援し、又、楽しく食べることにに向けて援助している</b></p> <p>園では低年齢児、一日支援、半日支援(午前)の園児に給食を提供している。低年齢児は午前の活動から給食の時間になるとテーブルを円形から四角に変え、保護者の膝から椅子に座って場面転換をしている。一日支援コース等では当番の園児と職員が「給食列車がきました～」とワゴンを運び、園児達に手を洗って席に着くよう「〇〇君食べよ～」「今日は焼きそばモリモリだよ！」と園児の名前を呼びながら配膳し、職員は席に着いた園児に「今日のデザートは？」と問いかけ「リンゴ！」と返す園児達、皆で給食の歌を歌い楽しいひと時になるよう演出している。</p> <p><b>看護師、栄養士はアレルギーや特別な配慮児の情報を全職員に周知し対応している</b></p> <p>園では給食を提供するにあたり毎年、保護者の意向を書面で確認している。給食で特別な配慮を希望する場合は、給食申請書でアレルギーの有無、食事形態(普通、きざみ、離乳食(後期・中期・初期))を確認し対応方法を明記し保護者に回答している。食物アレルギーがある場合は、アレルギーとなる食品、検査結果、家庭での対応、給食調理で配慮してほしいこと(食材、調理、環境設定など)を記入してもらい、給食業者から回答を得て提供している。看護師、栄養士はアレルギーや特別な配慮児の情報を全職員に周知し職員間でも確認し支援にあっている。</p> <p><b>歯科医による摂食指導では食事形態や介助方法の助言をうけている</b></p> <p>園では1日支援コースを対象に歯科健診を実施し保護者も参加して歯磨き実習を行い、低年齢児グループや相談時の子ども対象に個別の摂食指導や歯磨き指導をしている。歯科医による摂食指導では事前に保護者からアンケートをとり食事の様子をビデオで見てもらい食事形態や介助方法の助言を得る必要な場合はケース検討も行っている。又、歯科医による保護者や職員向けの研修会を企画し、園児達が食事に興味を持つよう療育活動に食事ごっこ遊びを取り入れている。最近では園児の定員増の他、多国籍の園児や保護者の増加により栄養士の負担は増加している。</p>		

3 評価項目3 子ども一人ひとりの状況に応じて生活上に必要な支援を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 身の回りのことは自分で行えるよう、必要な支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 基本的な生活習慣や社会生活上のルール等（あいさつ、マナー、交通ルール等）を身につけられるよう支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 集団活動を取り入れるなど、子どもの心身の発達や社会性が育つよう支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 一人ひとりの有する能力を活かせるよう個別のプログラムを実施している	○非該当
●あり ○なし	5. 送迎は、子どもと保護者等の状況に応じて送迎方法を検討し、行っている	○非該当

評価項目3の講評

**個別支援計画に生活面での目標を掲げ、療育活動の中で活指導を行っている**

園ではニーズ調査で保護者から生活面(食事、排せつ、着脱、歯磨き等)の現在の様子や要望を聞き取り、個別支援計画に生活面の目標(上着を着脱する)・支援内容(上着の持つ場所や腕の動きを伝えながら練習する)を明記し、生活指導(持ち物整理、食事・歯磨き・排せつ・着脱指導等)を行っている。園児は登園すると上着を脱ぎ着替える、活動場所を移動する時は上履きを履く脱ぐ等の園内のルールに沿って身の回りのことを訓練している。登園時や降園時、給食時などの挨拶、園生活や遊びのルールは集団療育活動を通して自ら行えるよう支援している。

**園児のダダコネ、パニック、こだわり等を受け止め適応力を育むことに取り組んでいる**

園では低年齢児と一日支援では集団療育、半日支援では集団指導を行っている。多様な個性を示す園児は子ども同士で喜んだりコミュニケーションをとることが苦手なケースが多い。職員は園児に強く表れるダダコネ、パニック、感覚過敏、こだわり等を受け止め適応力を育むことに取り組んでいる。運動遊び、身体交流(揺れ遊び、対人交流遊び)動物探し等の集団活動を通じて指示を聞く、モデルを見る、子ども同士で取り組む、着席する、待つ、順番等集団生活のルールに合わせて活動し、周囲を見て自分から動きクラス全体の活動に発展するよう支援している。

**送迎では、各家庭の状況により移動支援やファミリーサポートの利用も認めている**

園では個別支援計画で個々の目標を立て、集団活動や生活指導でその能力に応じた個別支援を行っている。個別指導の言語・認知学習(手の動作、言語理解、発語、ものの仕組み学習)、理学療法、作業療法は個別指導プログラムに沿ってマンツーマンで指導している。又、園児の一人ひとりの技能や発達段階に合わせた支援ができるよう職員には園内研修やOJTを行っている。園では保護者全員に送迎バスの利用を①毎回利用②時々乗車③利用しないの3択で確認し、送迎時は保護者の同行を基本としているが、各家庭の状況により移動支援等の利用も認めている。

4 評価項目4 子どもの健康を維持するための支援を行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの健康状態について、保護者や医療機関等から必要な情報を収集している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの状態に応じた健康管理を行い、体調変化に速やかに対応できる体制を整えている	○非該当

評価項目4の講評

**診療情報提供書と保護者からの健康の記録で健康状態を把握している**

園では、一日支援の新入園に対し嘱託医による健康診断を実施し、保護者からは健康の記録(アレルギーの有無、治療中の病気、医療機関名、予防接種の実施状況、既往歴等)で利用児の健康状態を把握している。又、低年齢児コース、一日支援コースを中心に小児科健診を行い、リハビリを受けている場合は整形健診(年3回)を実施、保護者からの医療的質問や相談にも応じている。分室ではほけんだより(年5回発行)で健康診断、歯科健診のお知らせや小児の感染症、健康な体作り等を伝え、保護者からの受診相談等には近隣の病院や嘱託医を紹介している。

**医療行為は原則保護者が行うことを基本に、医療的ケアを必要とする児を受け入れている**

園では医療的ケアを必要とする園児を受け入れているが、分室での医療行為は原則保護者自らの責任に基づいて行うこととしている。又、保護者には受け入れを前提に、分室の医療体制や区内の他の医療的ケア児の施設の情報も伝え、保護者の要望(子どもにいろいろな活動に参加させたい等)と利用希望児のニーズを確認し受け入れている。薬に関しては与薬対応マニュアルに沿って、登園時に保護者から1回分の薬とお薬連絡表を預かり、与薬は原則看護師が行っている。緊急時の薬として抗けいれん剤や災害時の預かり薬(常備薬2日分)も保管している。

**毎日、看護師は朝礼で職員に対し園児の配慮事項を確認し体調変化に対応している**

保護者からの特別な配慮事項を①施設・設備についての配慮、②医療的配慮、③移動や姿勢保持への配慮、④給食への配慮等を詳しく聞き取り、分室での対応方法を示し保護者に伝えている。園では配慮の内容(発作時、発熱時、アレルギー等)と対応及び注意事項(発作時、発熱時、アレルギーへの具体的な対応方法など)を一覧表にしている。毎日、看護師は朝礼で職員に園児の配慮事項の確認し、登園時の状態、保護者の話や保護者が記載する生活ノートの記載を参考にして健康状態を把握し各クラスの職員と連携し体調変化に対応している。

5 評価項目5 子どもの主体性を尊重し、施設での生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常生活の支援は子どもの主体性を尊重して行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの状況や希望に沿って、多様な体験ができるようにしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>園児が活動の多様な場面で不安なく主体的に行動できることを目指し支援している</p> <p>園では園児の主体性を大切にし興味・関心を育てていきたいと考え、年齢や発達段階を考慮して園児が活動の多様な場面で不安なく主体的に行動できることを目指している。職員は登園後の自由遊び等を通して、園児の好きな活動や興味のあるものを汲み取り、できる限りやりたいことを尊重し対応している。集団活動では周囲の人の行動や場面(視覚情報)を見て自ら行動する(取り組む)、大人や友達とのやり取りを楽しむ等、園児が場面を見て自分で判断し予測できるよう子どもにわかりやすい環境設定や場面転換を行い過剰介助にならないよう取り組んでいる。</p> <p>園児が主体的に行動できるよう視覚的に次の活動が予測できる環境作りをしている</p> <p>園は区障害者福祉センターの1階で園庭はないが、低年齢児、一日支援コース(2クラス)、半日支援コース(午前、午後)4クラスの4室と遊戯室・相談室が各1室ある。各クラスで使う机や椅子は廊下、多様な遊具類は遊戯室の壁面に置き、職員は食事や活動内容に応じて机や遊具を出して場面転換を行い、園児が主体的に行動できるよう視覚的に次の活動が予測できる環境作りをしている。園児の靴や衣類等の収納場所は一人で出し入れができるよう動物等のマークを貼っている。又、職員の一人が全体の目の役割を担い園児の行動を把握し安全に配慮している。</p> <p>年度初めに行事の見直しを行い早めに年間スケジュールを保護者に伝えている</p> <p>園では誕生日会や季節ごとの七夕やクリスマス会等の行事と、保育園や幼稚園に通っていない一日支援コースの園児を中心にした行事(夏祭り、遠足、年長児園外プール、合同運動会等)を行い、園児が多様な経験ができるよう努めている。また、今年度は年度初めに行事の見直しを行い年間スケジュールを決定し、早めに保護者に伝えている。今年度は、例年実施していた年長児のお泊り会を中止し、新たに夏祭りを楽しみ、区のスポーツセンターの小プール(貸し切り)と大プールの1コースを使って年長児園外プール活動で深いプールに入る体験もしている。</p>		
6 評価項目6 家族との交流・連携を図り支援を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どものサービス提供時の様子や家庭での普段の様子を家族と情報交換し、支援に活かしている	○非該当
●あり ○なし	2. 家族の意見や要望を活かした支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 家族の状況に配慮し、相談対応や支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもや家族に合った療育方法等について助言している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>合同懇談会を開いて年長の保護者から経験談や意見を聞く機会を作っている</p> <p>園では年度初めに保護者にニーズ調査を行い、療育の場面での保護者の要望(希望)を丁寧に聞き取り支援している。日々の家庭での様子は一日支援コースの場合は生活ノート、半日支援コースは送り迎えの際に口頭で伝えている、欠席の場合はクラス担任が電話で状況を聞き取っている。又、療育参加(一日支援コースで年3回)、日曜療育参加(園全体で年3回)を行い日々の活動の様子や現在の状況を伝えている。日曜療育参加では合同懇談会も行き、各クラスからテーマについて保護者同士で話し合い年長の保護者からの意見を聞く機会となっている。</p> <p>月1回利用の保護者に対してはクラス懇談会の内容の充実が必要と考えている</p> <p>園では個別面談(2週間1回～月1回程度)を定期的に行い、保護者からの希望を随時受け入れられている。今年度は一部の保護者を対象に心のケアの非常勤職員による保護者の悩み相談(1人20分程度)を行い、漫然と感じている不安、あせり等を聞き取り相談できる機会を設け、育児支援としてこころのケア講座、個別相談等にも応じている。しかし、昨年度より定員が300名になり個別面談の回数や時間が減っている状況がある。特に、月1回の利用の保護者に対してはクラス懇談会の内容を充実させ、面談に代わる機会にしたいと考えている。</p> <p>「ペアレントトレーニングプログラム」を年長児の保護者を対象に実施している</p> <p>園では、親が子どもに分かりやすく具体的で効果的な対応方法を身に付け、穏やかな日常生活を送ることができるよう「ペアレントトレーニングプログラム」(全10回)を半日支援コースの年長児の保護者を対象に希望をとり実施し、今年度は4名が受講した。このトレーニングでは子どもの「行動」の特徴を理解し、効果的な対応方法(上手なほめ方、効果的な指示の出し方等)をロールプレイで演習し、子どものいいところを見つけ子どもとの関係を改善することを目指している。</p>		

7 評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の情報を収集し、子どもの状況に応じて提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 必要に応じて、子どもが地域の資源を利用し、多様な体験や交流ができるよう支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 地域全体の在宅障害児や関係機関等を対象に、施設・設備や人材・プログラムを有効に活用した支援を実施している	○非該当
評価項目7の講評		
<p>学校案内や学校見学の情報とともに卒園後の放課後デイサービス等についても伝えている</p> <p>園では地域の情報(保護者向けの講演会、子ども向けのイベント、遊びの教室等)を積極的に収集し、園児と保護者が活用できるよう案内している。又、保健所やこども家庭支援センターの集まりや幼稚園の未就園児の会の情報も掲示し、必要であれば保護者に参加を勧めている。卒園後の区立小学校、特別支援学校、新設の特別支援学校、ろう学校等の学校案内や学校見学の案内も廊下に掲示し就学先とともに卒園後の放課後デイサービス等についても伝えているが、施設数が不足しており地域の関係機関と連携し社会資源を増やたいと考えている。</p> <p>地域の保育園の協力を得て園児達が互いに訪問する交流保育を月1回程度行っている</p> <p>園では区立図書館の読み聞かせボランティアのお話を今年度は5回実施している。地域の幼稚園、保育園に通園していない一日支援コース(毎日通園)の園児と希望する保護者を対象に月1回程度(1回1~4名)地域の交流先保育園の協力を得て保育活動に参加したり、保育園の園児たちも分園を訪れ互いに交流する機会を設けている。交流保育では交流先の保育園の子ども達との触れ合いを楽しみにしていると、お互いに「待っててくれる」「受け入れてくれる」という貴重な体験となっている。</p> <p>障害者福祉センター全体で開催される恒例行事「ふく福祭り」に毎年参加している</p> <p>園がある障害者福祉センター全体で開催される恒例行事「ふく福祭り」に今年も参加し、園児、家族をはじめ本園・分室の卒園児や地域住民や子ども達も参加している。法人では本園と分室の合同行事として毎年、保育園、幼稚園、学校・学童クラブ等の地域の関係機関を対象に、療育現場を公開し、午後、外部講師による講演会を行う公開療育を実施している。又、地域支援事業として地域の小規模保育園、新規開設保育園等の先生を対象に「気になる子を育む~日々の対処、そして地域、療育の連携」をテーマに研修会を実施している。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル①	毎週末にひやり・ハット報告を行い、月毎に部門別・内容別に集計・分析している	
内容①	園では、園児の病気・けがが危機管理対応マニュアル、給食管理対応マニュアルにより、日常の事故防止に努め、ヒヤリハットした経験に対する「ヒヤリハット報告書」(インシデント・レポート)、事故に対する「事故報告書」(アクシデント・レポート)を文書で提出し、毎週末の報告会で、各部門が日々意識する内容、配慮する内容の共通理解に取り組んでいる。ヒヤリハット報告は、月毎に、部門別(クラス単位、保健、事務、管理等)及び内容別(対応、環境、けが、飛び出し、個人情報等)に集計分析して、事故の未然防止・再発防止に努めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-2-2	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている
タイトル②	場面転換やシールを工夫して、新入园児にとってわかりやすい環境を設定している。	
内容②	園では利用ニーズに応じて在籍制限を300名程度まで拡大し、限られたスペースを最大限に活かした受け入れ体制を作っている。例えば、遊具を出し入れする際は、机の配置を変えることで活動場面が切り替わる合図とし、こども達は「関心を持って待つ」体験ができるようにしている。それぞれにマークを決めてシールを用意し、クラスを入れ替える一日支援コースの場合は都度、職員が靴箱や持ち物の置き場所シールを張り替えている。トイレの場所にもわかりやすい印をつけ、視覚情報を活用して新入园児が環境に早く馴染めるような構造化に取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-1	個別の支援計画に基づいて子ども一人ひとりの発達の状態に応じた支援を行っている
タイトル③	職員は園児が発するサインを読み取り、言葉に表しコミュニケーションを図っている	
内容③	園では言葉の発達に課題を抱える園児にとってコミュニケーションで重要となる人と人の関係性を育む療育(身体交流・対人交流活動)に取り組んでいる。工作の場面で園児が糊を塗る時には「ぬり、ぬり、ぬり」、いろ紙を貼る時は「ペッタン」と声掛けをしながら園児の動作を促している。又、発語の難しい園児に対しては、イヤイヤとぐずる動作や場面等から職員は「もっと遊びたいんだ」と声に出して園児の思いを代弁している。職員は園児のこだわりやパニック等のサインから、園児の場面ごとの思いを言葉に表し園児とのコミュニケーションを図っている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	在籍数拡大に対応して、保護者への療育支援ニーズ調査で効率化を図り、意向と課題に沿った個別支援計画を作成し、実践的な療育をしている
	内容	園は、在籍児を300人に拡大したことで、個別支援計画作成・報告、日々の指導プログラム作成等、職員の業務量が飛躍的に増大した。そこで「在籍児童の個別支援計画・報告書を予定通り保護者に配布する」を目標に、業務の簡素化、効率化に取り組んだ。また、「療育支援ニーズ調査」で、保護者と共に個別支援計画を作成することで、利用者ニーズに沿った効率よい体制が構築できた。集団活動、言語・認知指導などの個別記録と共に、クラス日誌にもその日描いた絵や作った作品の様子を写真し、きめ細かな記録をモニタリング情報し支援に活かしている。
2	タイトル	祭りへの参加・交流保育・公開療育開催・卒園児の移行支援等の地域交流に加えて、保育園との事例研修会等の地域支援にも力を入れている
	内容	地域の人々との交流を深めるため、①福祉センター主催のふく福祭りに積極的に参加し②地域のこども達と触れ合う機会を設けるため、地域の保育園と協力して交流保育を行い③地域に向けた研修事業「公開療育」を毎年開催し④卒園児が就学後円滑な指導を受けられるよう、移行支援に取り組んでいる。昨年度からは、近隣の保育園・無認可保育施設の職員との事例研修会を実施し、気になる子どもの理解と対応を学ぶ機会を作り、学校と連携して、なかよし学級とのケース会議を開いて子どもがスムーズに通えるよう支援する等、地域支援にも力を入れている。
3	タイトル	園児が周囲の人の行動や場面を見て、自分で判断・予測し行動できるよう、分かりやすい環境設定や場面転換で主体性発揮の療育をしている
	内容	園では園児の主体性を大切にし活動の多様な場面で不安なく主体的に行動できることを目指し支援している。活動の始まりと終わりの声掛けと場面転換(部屋を移動する、机と椅子を並べる、遊具を出す等)で、園児が視覚的に活動が代わることを予測し不安にならないよう工夫している。又、集団活動では園児自身が周囲の人の行動や場面(遊具や机等の視覚情報)を見て自ら行動したり、大人や友達とのやり取りを楽しむ等、場面を見て自分で判断し予測できるよう園児にわかりやすい環境設定や場面転換を行い主体性を発揮できる療育を展開している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	事業に関わる報告項目は年度・月次で管理されているが、施設運営の改善等の計画についても、管理指標を明確にする等の工夫が期待される
	内容	区の指定管理者である園は、基本協定書に基づき、年度終了時点で実績報告書と翌年度分の事業計画書を区に提出し、児童発達支援事業の通園事業日数、在籍園児数・退園児数、出席状況を月次で管理し、月報にまとめ報告している。管理経費の収支状況についても、収支予算書で資金収支の詳細及び人件費・事務費などの事業経費を月次で管理している。一方で、施設運営に関する計画の進捗については、職員の関心はやや薄く、施設運営の改善(環境整備・業務改善・適切な支援の提供等)に関して、実効策の進捗管理指標を明確にするなどの工夫が期待される。
2	タイトル	紙ベースの資料を減らし情報の共有と効率化を図るとともに個人情報保護のためにも、情報管理の電子化に向け引き続きの改善が期待される
	内容	園では、利用者の支援記録は、紙ベースに記述し、種類毎にファイリングして鍵付きロッカーに保管している。健康の記録・身体測定・健診録はパソコンの個別ファイルに記録しUSBで保存・保管している。個人情報管理委員会は、USBを廃止し共有サーバーを導入し、テーマ別、部門別のフォルダで情報管理する方向を検討している。在籍利用者数の増加により、事務業務量が増えている中で、紙ベース資料を減らし情報の共有と管理の効率化を図るとともに個人情報保護のためにも、情報管理の電子化に向け引き続きの改善が期待される。
3	タイトル	定員が300名になり個別面談の回数や時間が減っている状況を踏まえ、月1回利用の不安や悩みを抱える保護者に寄り添った対応が望まれる
	内容	園では個別面談(2週間1回～月1回程度)を定期的に行うとともに、「各種申請書」をクラスに常備し保護者からの要望を随時受け入れているが、昨年度より定員が300名になり個別面談の回数や時間が減っている。保護者からは職員はとも丁寧、信頼できるとの声がある一方で月1回で関りが少なく子どもの様子や悩みが共有できない、職員により対応にばらつきがある等の意見もある。園では保護者対応はベテラン職員が行い、月1回利用のクラス懇談会の充実を検討しているが、不安、悩み、あせりを抱える保護者の気持ちに寄り添った対応が望まれる。